

## 読書力

斉藤孝著 岩波書店 2002 (岩波新書)

商学部准教授 計 聡

大学に入ると教科書以外に先生が紹介した参考書を読んだり、自分で研究に関わる本や資料を調べたり、そして勉強した結果をレポートにまとめたりするなど、何かと本と触れる機会が多くなる。しかし、いままであまり読書に慣れていない学生には、与えられた数多くの参考書、莫大な資料を限られた短い時間で一体どのように読み通し、そしてどのように自分の言葉でうまくレポートにまとめるかは大変な苦勞であろう。また、大学で学んだ集大成である卒業論文テーマの選択に四苦八苦する学生も多いだろう。しかし本書はこれらの苦勞を楽しみに変える方法を教えてくれる。

そもそも人間にとってなぜ読書が必要か。読書は自分の人生にどのような役割を果たすのか。すなわち「読書の意味」についてこの本は答えてくれる。それから、読書することは決して苦痛な行為ではなく、まるで「スポーツを楽しみながら知らず知らずのうちに体力、技術が向上する」ように、読書の習慣をつける方法もこの本は詳しく教えてくれる。さらに、読書を通じて世界が広がっていく経験、一言で言うと「読書の楽しみ方」をこの本は指南してくれるのである。

読書が苦手な学生諸君は、ぜひ最初にこの本を読んでもらいたい。また、これをきっかけとして本と親しみ、本を通じて自己発見と自己形成を行ってもらいたい。



## 武士の娘

杉本鉞子著 大岩美代訳 筑摩書房 1994 (ちくま文庫)

文学部教授 板坂 則子

鉞子は明治六年(1873)、長岡藩の家老の娘として新潟に生まれました。明治維新によって実家はかつての勢いを失いましたが、彼女は両親や祖母様、使用人たちの慈愛に生まれ、上級武士の娘として厳しい躰と学問教育を受けながら育ちます。縮れ髪を持ち、好奇心溢れる末っ子の鉞子はエツ坊と呼ばれ、一家中のアイドルでした。

このエツ坊はやがて数奇な一生を送ることとなります。娘時代に父を失ったエツ坊は英語を学び、兄の友人の伴侶となるべくアメリカへと渡ります。新天地で第二の母と慕う女性に出会い二人の娘も持つものの、共に助け合うべき夫の急死により悲嘆の中で日本に帰国。そして娘の成長を考えて再びアメリカへ。エツ坊がどんな苦境にあっても毅然としていられたのは、常に「武士の娘」としての誇りが彼女を支えたからです。やがてエツ坊は文筆の道に進み、コロンビア大学で講義をし、この書を世に出します。

本書は1925年に刊行され、七カ国語に訳されたベストセラーなのです。原著は英語で書かれ、つまりこの書は翻訳本ですが、その日本語の見事さには感歎するばかりです。訳者と著者が共に磨き合って紡ぎ出した言葉の美しさは、凛と生きた旧時代の輝きを伝えてやまないでしょう。I'm proud of myself. 小さなエツ坊が胸を張って言い切れた「誇り」を、わたしは限りなく尊く思います。国際化って何？ そう思ったら、この本を繙いてみませんか？